

作成日 2022年6月15日
改訂日 年 月 日

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名	SSSボンド#700主剤 通年用		
会社名	ヤブ原産業株式会社		
住所	〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷 546		
担当部署	販売営業部		
作成者	技術部		
電話番号	048-297-4111	FAX番号	048-290-1198
緊急連絡先	048-297-4111		
製品の種類	建築補修用注入エポキシ樹脂主剤		
推奨用途及び使用上の制限	モルタル浮きの注入補修		
整理番号	120113R		

2. 危険有害性の要約

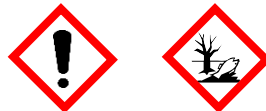
GHS分類

健康に対する有害性	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2A
	皮膚感作性	区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（慢性）	区分2

*上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	皮膚刺激 強い眼刺激 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ 水生生物に毒性 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い後はよく目を洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズ

を着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して、涼しく換気の良いところで、施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

物質の特定 成分および含有量

化学名	化審法	CAS 番号	含有量 (%)	備考
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	既存	25068-38-6	80～95	
エポキシ樹脂希釈剤	非公開	非公開	2～5	
シリカ	既存	67762-90-7	1～8	

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。
直ちに、汚染された衣類をとりのぞくこと。
大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
まぶたの裏まで完全に洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- 消化剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、霧状の水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水
- 特有の危険有害性 : 火災時にアクロレイン、一酸化炭素、塩素ガスを発生する可能性がある。(アクロレインは吸入すると肺気腫が起こりうり、また眼刺激性を有する)
- 特有の消化方法 : 消火活動は風上より行う。
移動可能な可燃性容器は安全な場所へ移す。
周囲の可燃物設備を散水して冷却する。
指定の消化剤を使用すること。
- 消化を行う者の保護 : 適切な保護具(耐熱性着衣、耐熱性手袋、防災面、自給式呼吸器など)を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用し、風上から作業する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。
着火した場合に備えて、適切な消化器を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。
側溝、下水、河川に流出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の
方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取り扱うとき用いるすべての設備は設置する。
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止器具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度密栓する。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
工具は火花防止方のものを使用する。
使用済ウエス等は廃棄するまで水につけておく。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないよう保護具を着用する。
取り扱い後は手・顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。
過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わない。
- 注意事項 : 静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
- 保管
- 技術的対策および
保管条件 : 日光の直射を避ける。
通風のよいところに保管する。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
盗難防止のために施錠保管する。
- 注意事項 : 強酸化剤、強酸、強アルカリとの接触は避ける。また過剰のアミン等の硬化剤との接触は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 (ACGIH) : シリカ 10mg/m³ (TLV)、総粉塵 8mg/m³ (日本産業衛生学会)
- 設備対策 : 取り扱い設備は防爆型を使用する。
液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取るように設備する。
取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。
屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等に

より作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付けること。
取扱い場所の近くには洗眼器、シャワーを設置する。

保護具

- 呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスクを着用する。
密閉された場所では送気マスクを着用する。
- 手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 目の保護具 : 取り扱いには保護メガネを着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的および化学的性質

- 状態 : グリス状
色 : 白色
臭い : わずかな臭気
引火点 : 約172℃
比重 : 約1.15
水に対する溶解性 : 難溶
n-オクタノール/水分配係数 : データなし

10. 安定性および反応性

- 安定性 : 常温・常圧で安定、単独では危険な反応はしない。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤、強酸、アミン類、強アルカリと反応する。
エポキシ樹脂用硬化剤（アミン類、酸無水物類等）と反応する。
過剰の硬化剤（特にアミン類）と激しく反応し発熱する。
- 避けるべき条件 : 高温、火気、スパーク。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、強アルカリ類、アミン類、酸無水物類との接触は避ける。特に脂肪族アミンなどの硬化剤との接触は避ける。
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、酸化窒素類等を発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 経口 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (LD₅₀ ラット : 11,400 mg/kg、区分に該当しない)
- 経皮 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (LD₅₀ ウサギ : 23,000mg/kg、区分に該当しない)
- 皮膚腐食性・刺激性 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (区分2)
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (区分2A)
- 呼吸器感作性または皮膚感作性 : 呼吸器 : 分類できない
皮膚 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (区分1)
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない
- 発がん性 : 分類できない
- 生殖毒性 : 分類できない
- 特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : 分類できない
- 特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : 分類できない
- 吸引性呼吸器有毒性 : 分類できない

12. 環境影響情報

- 水生環境有害性 (急性) : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (LC₅₀ 魚類 96時間 : 1.2~2.4mg/L、区分2)

(慢性) : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (LC₅₀魚類 96時間 : 1.2~2.4mg/L、区分2)

生態毒性 : 情報なし
残留性・分解性 : 情報なし
生態蓄積性 : 情報なし
土壌中の移動性 : 情報なし
オゾン層への有害性 : 情報なし

- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
- ・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約 (マニフェスト) をして処理をする。
容器、機器等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規にしたがって処理を行うか、委託をすること。

汚染容器および包装 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

1 4. 輸送上の注意

共通

取り扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規定

陸上規制情報 : 消防法、労働安全衛生法等に定められた運送方法に従うこと。
海上規制情報 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空規制情報 : 航空法に定めるところに従うこと。
国連番号 : 3077
品名 : 環境有害性物質 (固体)
国連分類 : 9
容器等級 : III
指針番号 : 171

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。
航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。
UN No. : 3077
Class : 9
Packing Group : III

1 5. 適用法令

消防法 : 指定可燃物 可燃性固体類
労働基準法 : 感作性を有するもの (法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、平8労基局長通達、基発第182号) (ビスフェノールA型エポキシ樹脂)
労働安全衛生法 : (表示・通知対象物質) シリカ
変異原性が認められた既存化学物質 (法第57条の5、労働基準局長通達) (ビスフェノールA型エポキシ樹脂)
化学物質管理促進法 : 非該当

16. その他の情報

参考文献

- ・ GHS 対応 SDS ・ ラベル作成ガイドブック [混合物 (塗料用)] (日本塗料工業会)
- ・ SDS 用物質データベース (日本塗料工業会)
- ・ 化学物質安全性評価シート (化学物質評価研究機構)
- ・ 国際化学物質安全カード (I C S C)
- ・ 新エポキシ樹脂・硬化剤正しい取扱いの手引き (エポキシ樹脂技術協会)
- ・ 原料 SDS

注意

本データシートは、作成または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報 (危険有害性情報・取扱い情報等) を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特種な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。

作成日 2022年6月15日
改訂日 年 月 日

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名 S S S ボンド# 7 0 0 硬化剤 通年用
会社名 ヤブ原産業株式会社
住 所 〒 3 3 4 - 0 0 5 4 埼玉県川口市安行北谷 5 4 6
担当部署 販売営業部
作成者 技術部
電話番号 0 4 8 - 2 9 7 - 4 1 1 1 F A X 番号 0 4 8 - 2 9 0 - 1 1 9 8
緊急連絡先 0 4 8 - 2 9 7 - 4 1 1 1
製品の種類 建築補修用注入エポキシ樹脂硬化剤
推奨用途及び使用上の制限 モルタル浮きの注入補修
整理番号 1 2 0 1 1 3 H

2. 危険有害性の要約

G H S 分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分1

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分1

皮膚感作性 区分1

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性） 区分2

水生環境有害性（慢性） 区分2

オゾン層有害性 分類できない

※上記以外は区分に該当しないか分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

水生生物に毒性

長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。

粉じん／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

取扱い後は、手や顔をよく洗い、うがいをする事。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（または髪）に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合、多量の石鹼と水で洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して、涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

主成分 : ポリアミドアミン (CASNo. 68071-65-8)

物質の特定 成分および含有量

物質名	化審法番号	CAS 番号	含有量 (%)	備考
テトラエチレンペンタミン	(2)-162	112-57-2	10	分類に寄与する不純物及び安定化添加剤

4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類を脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護 : 救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

5. 火災時の措置

消化剤 : 小火災 : 粉末、炭酸ガス、散水
 大火災 : 粉末、炭酸ガス、耐アルコール性泡、散水

使ってはならない消化剤 : 情報なし

火災時の特定の危険有害性 : 火災によって刺激性、腐食性のまたは毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消化方法 : 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
 可能な限り遠くから無人ホース保持具やモニター付ノズルを用いて消化する。
 容器内に水を入れてはいけない。
 消化後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火活動は風上より行う。

消化を行う者の保護 : 適切な保護具（化学用保護衣、空気呼吸器など）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置
- ：作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
屋内では換気をしっかり行う。
屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行う。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。
着火した場合に備えて、適切な消化器を準備する。
- 環境に対する注意事項
封じ込めおよび浄化の
方法・機材
- ：河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。
：危険でなければ漏れを止める。
漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
付着物、廃棄物等は、関係法規にもとづいて処置すること。
衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは狭い場所への流入を防ぐ。
容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策
- ：換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密栓する。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
工具は火花防止方のものを使用する。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないよう保護具を着用する。
取り扱い後は手・顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わない。
環境への放出を避けること。
- 注意事項
- ：静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
- 保管
- 技術的対策および
保管条件
- ：日光の直射を避ける。容器を密閉して、通風のよいところに保管する。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
酸化剤、酸から離して保管する
軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、表面処理された鋼板あるいはステンレス容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度
- ：設定されていない。
- 許容濃度
- 日本産衛学会
- ：設定されていない
- ACGIH
- ：設定されていない。
- 設備対策
- ：取り扱い設備は防爆型を使用する。
液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取るように設備する。
取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気で

きる装置を取り付けること。
取扱い場所の近くには洗眼器、シャワーを設置する。

保護具

- 呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスクを着用する。
密閉された場所では送気マスクを着用する。
- 手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 目の保護具 : 取扱いには保護メガネを着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的および化学的性質

- 状態 : 液体
- 色 : 褐色
- 臭い : アミン臭
- 引火点 : 214℃
- 比重 : 0.95 (25℃)
- 溶解度 : 芳香族炭化水素系溶剤、アルコール系溶剤の混合溶剤に可溶
- n-オクタノール／水分配係数 : データなし
- 粘度 : 200～500 mPa·s (25℃)
- アミン価 : 435～465

10. 安定性および反応性

- 安定性 : 通常の条件下では安定であるが、長時間の空気との接触では変質する。
- 反応性 : アルカリ性物質であり、また分子内にアミノ基を有しており、炭酸ガス、酸性物質、エポキシ化合物およびイソシアネート化合物等と反応する。
- 避けるべき条件 : 過度の加熱、空気および水との接触。
- 混触危険物質 : 炭酸ガス、酸性物質、エポキシ化合物およびイソシアネート化合物等。
- 危険有害な分解性生成物 : アミン類、アンモニア、燃焼等によるCO、NOx

11. 有害性情報

- 急性毒性 経口 : テトラエチレンペンタミン (LD₅₀ ラット : 2100-3990 mg/kg 分類できない)
- 経皮 : テトラエチレンペンタミン (LD₅₀ ウサギ : 660、1260 mg/kg 分類できない)
- 吸入 (蒸気) : 分類できない
- 吸入 (ミスト) : 分類できない
- 皮膚腐食性・刺激性 : テトラエチレンペンタミン (区分1)
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : テトラエチレンペンタミン (区分1)
- 呼吸器感受性または皮膚感受性 : テトラエチレンペンタミン (区分1、皮膚)
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない
- 発がん性 : 分類できない
- 生殖毒性 : 分類できない
- 特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : 分類できない
- 特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : 分類できない
- 吸引性呼吸器有毒性 : 分類できない

12. 環境影響情報

- 生態毒性 : テトラエチレンペンタミン (ErC₅₀ (72h) 藻類 セレナストラム : 0.12 mg/l)
(NOEC (72h) : 0.018 mg/l)
- 残留性・分解性 : テトラエチレンペンタミン 難分解性 : Closed Bottle Test <10%(28d)

生態蓄積性 : テトラエチレンペンタミン 生物蓄積性が低いと推定される : $\log K_{ow} = -3.16$
土壌中の移動性 : 情報なし
水生環境有害性 (急性) : 区分 2
(慢性) : 区分 2
オゾン層への有害性 : 分類できない
・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関係法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約 (マニフェスト) をして処理をする。
容器、機器等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規にしたがって処理を行うか、委託をすること。
汚染容器および包装 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

1 4. 輸送上の注意

共通

取り扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規定

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に定められた運送方法に従うこと。
海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。
国連番号 : 2735
品名 : ポリアミン類 (液体) (腐食性のもの)
国連分類 : 8
容器等級 : III
指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。
航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。
UN No. : 2735
Proper shipping Name: POLYAMINES, LIQUID, CORROSIVE, N. O. S
Class : 8
Packing Group : III

1 5. 適用法令

消防法 : 第4類第四石油類 危険等級III
労働安全衛生法 : 非該当
化学物質管理促進法 : 第一種指定化学物質 (法第2条第7項、施工令第1条別表第1)
3,6,9-トリアザウンデカン-1,11-ジアミン (別名テトラエチレンペンタミン)
(政令番号第276号)
毒物及び劇物取締法 : 非該当
化審法 : 第3監視化学物質 (法第2条第6項)
3,6,9-トリアザウンデカン-1,11-ジアミン (別名テトラエチレンペンタミン)
(通し番号第166号)
船舶安全法 : 腐食性物質 (危規則第2、3条危険物告示別表第1)
航空法 : 腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)

厚生労働省労働基準局長通達：ポリアミドアミン（基発第477号の2）
（エポキシ樹脂硬化剤の主成分表示）

16. その他の情報

参考文献

- 1) GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）〕（日本塗料工業会）
- 2) SDS用物質データベース（日本塗料工業会）
- 3) 国際化学物質安全カード（ICSC）
- 4) 既存化学物質安全性点検データ
- 5) 原料SDS

注意

本データシートは、作成または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報等）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特種な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。